

2026 年度・中学入試（国語・第 1 回）ミニ解説



問一 空欄 A の直前は「～ではなく、もっと」とあります。1 行前に「一過性の気分の高揚と自己肯定感を混同すべきではない」とあるので、A には「一過性」とは逆の言葉が入るはずです。また、1 行後にも「一時的に気分が高揚しても、だからといって自己肯定感が高まるわけではなく」とあるので、A には「一時的」とは逆の言葉が入ります。「一過性」「一時的」とは逆の選択肢を選びましょう。

問二 1 と 2、3 と 4 にはそれぞれ逆の言葉が入るはずです。「自己肯定感が低い者」は 1、「自己肯定感が高い者」は 2、「ほめる」ことによって常に 3 な気分だと、4 な状況（3 行後に「困難な状況」とある）に耐える力が鍛えられない、という文脈です。

問三 筆者は理由を四つあげていますが、その第一をまとめた一文となります。第二の直前の段落で述べている内容が答えとなります。

問四 通常「モチベーション」は「やる気」などの意味で用いられますが、この文章の「ほめても自己肯定感が高まるわけではない」理由の第一にあたる部分では「萎縮せずに積極的にチャレンジする」意味で用いられています。

問五 直後の結果解説の部分に「条件①の『頭が良い』とほめられた子どもたち」、「条件③の『頑張った』とほめられた子どもたち」と明記されています。

問六 「操作性を感じるほめ方」の例で、「ほめれば言うことを聞くはずだ」に対応する生徒側の反応を考えると良いでしょう。

問七 自分の考えを書いた受験生が多数いました。投稿の内容がなじみのある状況だったからでしょうが、設問に「もしあなたが筆者だったら」と書いてありますので、筆者の立場で解答するようにしてください。ポイントは「操作性を感じる」点と、生徒の「レジリエンスを鍛えてない」点です。

問八 最後から 4 行前に解答そのものが述べられています。

問九 「もともとは物理学用語で弾力を意味する」とあるので、これに近い選択肢を選びましょう。

問十 直前にある「柔軟性」に近い選択肢を選びましょう。この問いは、問九とセットの問題です。



問一 傍線部の「ひとこと言ってやりたくなる」相手はだれかということ、直前にある篠田について「無責任なことをしゃべっている」「生徒たち」です。その「無責任なこと」を言い換える五文字の言葉を本文中から探します。傍線部の少し先に、篠田のことについて豪太郎が心の中で考えている部分があり、「心ない中傷」とあるのでこれが正解となります。その直前にある「さっきのように」という言葉もヒントになります。

問二 このときの篠田がどんな表情かを問う問題です。直前には、「少し恥ずかしそうな、それでいて」とあるので、「恥ずかし」と反対の意味になるような言葉だと考えられます。その後を読んでいくと篠田のロケットに対する「強い思い入れ」を豪太郎は推測しています。この言葉に見合う言葉、ウが正解です。

問三 傍線部の前では、一日も学校に来ていない篠田が、自分の作ったロケットを展示したことが書かれています。そのことに影響を受けた豪太郎が何を考えたか、ということを考えましょう。その先を読ん

でいくと、少し先に正解の記述があります。「篠田の出品」を「篠田の作品」と書き間違えている人が多かったので、正確に書き抜きましょう。

問四 正答率の高い問題でした。ⅠⅡともに、その部分がどんな様子かを考えます。Ⅰは、会議室の中を作品を見ながら歩く様子です。Ⅱは、倉橋先生に編みぐるみを展示しないよう強く主張している女子生徒を、倉橋先生がなだめているところです。そのような状況を考え正解を選びましょう。

問五 傍線部直後の倉橋先生の言葉によく注目すると、正解を選べます。他の選択肢には、本文にない内容が含まれています。

問六 傍線部の豪太郎は、倉橋先生に心の中を見透かされたような気持ちになっています。傍線部の豪太郎の気持ちを考えましょう。豪太郎が編みぐるみをこっそり展示したことを、先生に見破られていないかという不安を読み取ってください。

問七 「火照る」とは、身体が熱くなることです。豪太郎の身体が、発表会が終わってもなお熱くなっている理由を考えましょう。傍線部直前に、豪太郎が編みぐるみを一日限りだけれど展示したことが記されています。勇気を持って編みぐるみを展示することができた豪太郎の気持ちの高ぶりに気づいてもらいたいと思います。

問八 最も正答率が高かった問題です。身体に関する慣用句はたくさんありますので、しっかり押さえておきましょう。

問九 傍線部の直前をよく読みましょう。「逃げ出したくなった」のは、「猛烈な恥ずかしさ」がわいたからですが、その理由は、「コソコソ編みぐるみを作っている自分」のことを、篠田がどんなふうにしたかを想像したから、です。このことを四十字以内でまとめましょう。具体的に説明しきれていないものや、表現の不十分なものもありましたので、解答が書けても必ず読み返しをしてみましょう。

☐

①「余談」は「予断」、②「共鳴」は「明」、③「慣習」は「観衆」の誤りが多くありました。同音異義語を書き分けられるように、言葉の意味を意識して勉強しましょう。